

令和4年（1月～12月）における救急概況

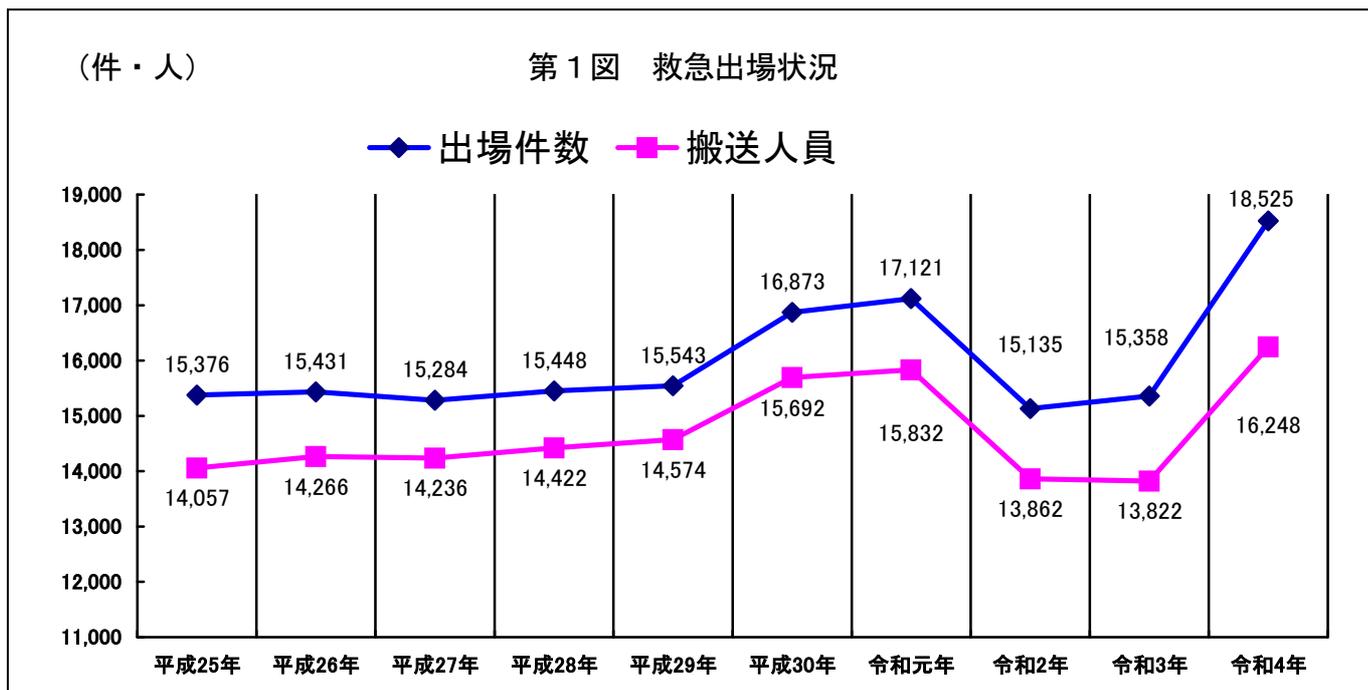
※ 本統計中の全ての表・図における合計値は、端数処理の関係で100%とされない場合があります。

1 救急出場状況

令和4年中の救急出場件数は18,525件で、前年と比べて3,167件増加している。これは、1日平均51件（28分に1件）の割合で救急車が出場していることになる。

搬送人員は16,248人で、前年と比べて2,426人増加している。

（第1図）

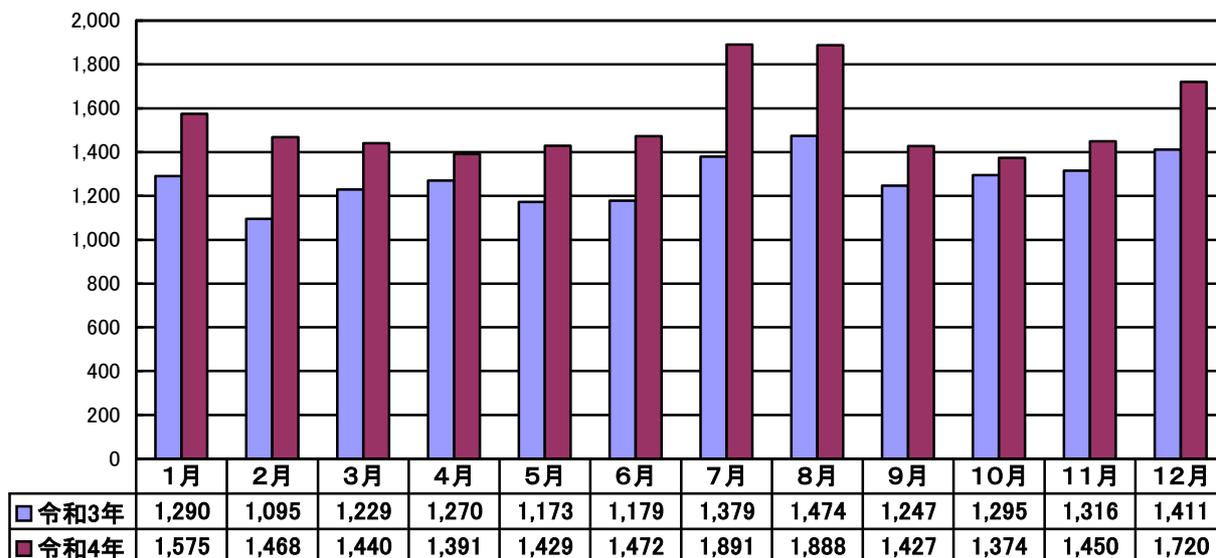


2 月別出場件数

救急出場件数を月別で見ると、7月が1,891件で最も多く、次いで8月が1,888件、12月が1,720件の順となっている。（第2図）

（件）

第2図 月別出場件数

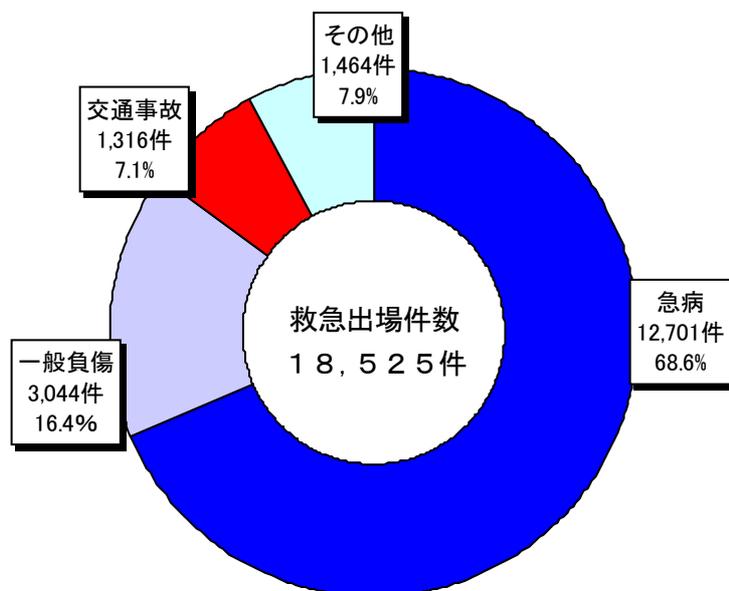


3 事故別出場状況

救急出場件数を事故種別ごとにみると、急病が12,701件、一般負傷が3,044件、交通事故が1,316件の順となり、これら3種別で全体の92%を占めている。(第3図)

第3図 事故別出場状況

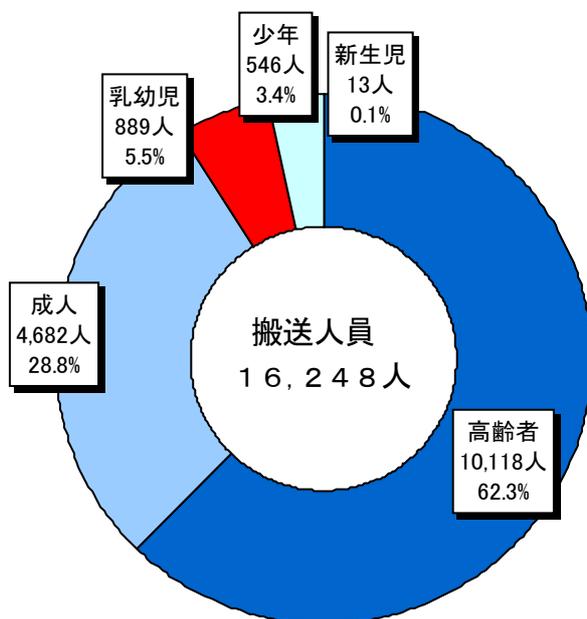
※ その他の件数は、転院搬送、労働災害、自損行為、加害等の合計である。



4 年齢区分別搬送状況

搬送人員を年齢区分別にみると、高齢者が10,118人で全体の62%を占めており、成人が4,682人、乳幼児が889人、少年が546人、新生児が13人の順となっている。(第4図)(注1)

第4図 年齢区分別搬送状況



(注1)

新生児：生後28日以下
乳幼児：生後29日以上6歳以下
少年：7歳以上17歳以下
成人：18歳以上64歳以下
高齢者：65歳以上

5 診療科目及び管内外別搬送状況

搬送人員を診療科目別にみると、内科が4,558人、整形外科が2,588人、脳神経外科が2,585人の順となっている。

搬送先医療機関については、全体の68%を市内へ、32%を市外へ搬送している。(第1表)

第1表 診療科目及び管内外別搬送人員

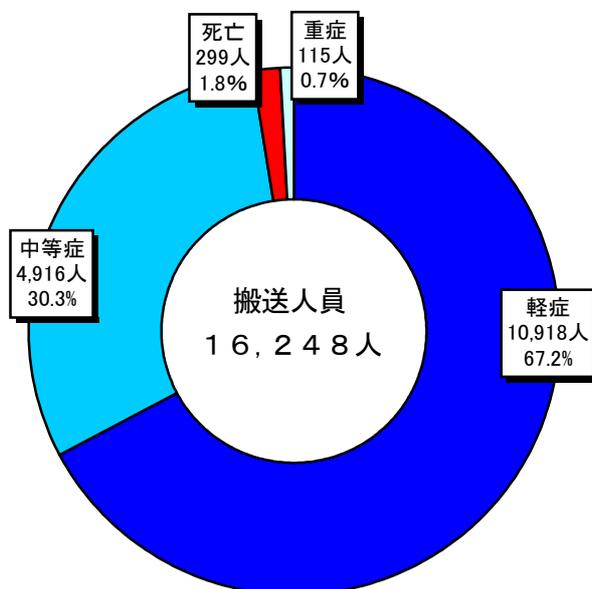
	八尾市内	八尾市外	合計(人)
内 科	3,430	1,128	4,558
循環器科	888	363	1,251
呼吸器科	1,215	868	2,083
小 児 科	292	454	746
外 科	295	164	459
整形外科	1,981	607	2,588
脳神経外科	1,666	919	2,585
産婦人科	23	91	114
泌尿器科	202	81	283
神経内科	974	301	1,275
そ の 他	161	145	306
合 計	11,127	5,121	16,248

※ 上記表中の「その他」とは、上記診療科目以外の全てのものをいう。

6 傷病程度別搬送人員状況

搬送人員の内訳を傷病程度別にみると、軽症が10,918人、中等症が4,916人、重症が115人などとなっている。(第5図)(注2)

第5図 傷病程度別搬送人員状況



(注2)

死 亡：初診時に死亡が確認されたもの
 重 症：傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
 中 等 症：傷病の程度が重症または軽症以外のもの
 軽 症：傷病の程度が入院加療を要しないもの

7 応急手当の普及啓発活動

救急車の要請から現場に到着するまでの時間は、約8.8分である。

救急車が現場に到着するまでの間、救急現場近くの住民等による応急手当が適切に実施されれば、大きな救命効果が得られる。

消防本部では心肺蘇生法の普及啓発活動を積極的に推進している。(第2表)

第2表 令和4年中普及啓発活動状況

講習会名 区分	開催回数 (回)	受講人数 (人)	講習内容
普通救命講習Ⅰ	25	461	心肺蘇生法・AED・止血法の3時間講習
普通救命講習Ⅱ	0	0	普通救命講習Ⅰの内容に実技試験及び筆記試験を加えた4時間講習
普通救命講習Ⅲ	6	100	心肺蘇生法(主に小児・乳児・新生児)・AED・止血法の3時間講習
上級救命講習	1	7	普通救命講習の内容に加え小児・乳児の心肺蘇生法、外傷の手当法の訓練を実施した後、実技試験及び筆記試験を行う8時間講習
応急手当訓練	72	2,056	3時間に満たない心肺蘇生法・AED・止血法の講習
計	104	2,624	

(参考)

消防本部では、ご自宅や職場でも応急手当を学んで頂けるよう、動画「WEB自主防災(心肺蘇生法とAEDの使用方法)」を作成し、YouTube 八尾市公式チャンネルで公開しています。

【動画イメージ】



【動画QRコード】

